

世界防災フォーラム・プレナリーセッション「被災地からの経験・教訓の共有と継承」に登壇しました(2017/11/26)

テーマ：震災伝承、国際会議
 場所：仙台国産センター・大ホール（宮城県仙台市）

世界防災フォーラム／防災ダボス会議が、仙台市市内で開催され、会期中の11月26日（日）に、宮城県主催によるプレナリーセッション（一般市民向け公開セッション）として、「被災地からの経験・教訓の共有と継承—東日本大震災を中心に—」が開催され、研究者と実務者が災害の教訓の共有・継承のあり方を議論しました。当研究所からは、佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）が東北において災害伝承に関する研究・実践を行なっている者として登壇しました。そのほか、パネリストには、牧紀男教授（京都大学防災研究所）、重川希志依教授（常葉大学大学院環境防災学研究科）、トリシア・ワクテンドルフ教授（デラウェア大学災害研究センター）、藤間千尋氏（みらいサポート石巻）が登壇しました。佐藤翔輔准教授は、自身が行なっている震災伝承に関する研究のほか、東北での伝承に実態・課題について報告した後、登壇したパネリストと教訓の共有・継承のあり方について意見を交わしました。同時間帯は、多くのセッションが同時開催されているにも関わらず、300名を超える参加がありました。



パネルディスカッションの様子
 （佐藤翔輔准教授は右から3番目）



佐藤翔輔准教授

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）